

見える化シート

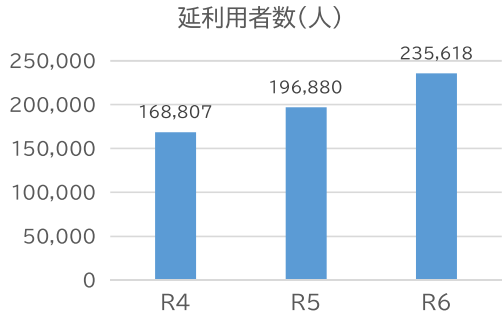
基準日

令和7年3月31日現在

基本情報

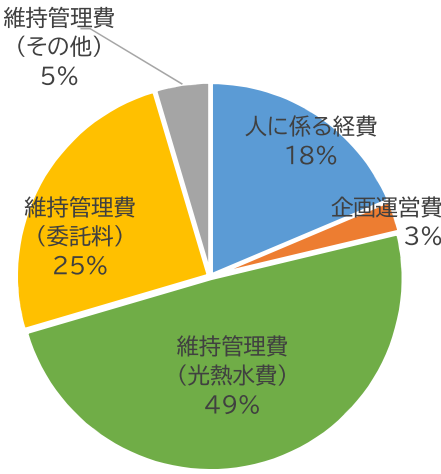
施設名称	長根屋内スケート場	
所在地	八戸市大字売市字奥遊下3	
所管部署	長根屋内スケート場	
設置の目的	スピードスケート競技を中心としたスポーツの普及振興及び市民の健康の維持増進を図るための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

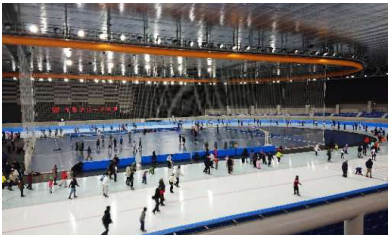
土地	土地面積	62,274.83			m ²	所有状況	市有地						
	用途地域	第二種中高層住居専用地域											
建物	建物名称	長根屋内スケート場											
	建築年月日	令和元年7月2日											
	延床面積	26,274.00			m ²	構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造	階数	地上	3	地下	1	
	整備費用	12,506,593			千円	財産区分	行政財産						
	耐震診断	不要				診断結果	－						
運営	開館時間	9:00～21:00					延利用者数(人) 						
	休館日	毎週月曜日、12/31、1/1											
	開館日数(日)	R4	301	R5	314	R6							309
	運営形態	直営											
利用	主な利用者	市民(全市的)		市内競技者		全国からの競技者							
	延利用者数(人)	R4	168,807	R5	196,880	R6	235,618						
	1日当たり利用者数(人)	R4	561	R5	627	R6	763						
	利用料金	入館料	無料 ※スケートリンク滑走料 一般700円、高校生430円、中学生300円、小学生以下180円				貸館利用料	八戸市屋内スケートリンク条例による					

※利用料金の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無				職員数(人)	
駐車場の有無	有	自動車	600	正職員	会計年度任用職員
利用時間	9:00～21:00	原付・バイク	－		
入出庫時間	6:30～21:30	自転車	－	9	3
バリアフリーの状況				自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
○	○	○	○	○	－
災害指定避難					
指定緊急避難場所					蔵書数 (冊)
指定避難所					
洪水	土砂	地震	大規模な 火災	火山	
－	－	－	－	－	－

施設運営費の状況				(単位:千円)			
		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率
支出	人に係る経費	74,871		74,247		78,174	
	企画運営費	1,874	6%	26,735	1%	11,070	5%
	施設の維持管理費	358,357	76%	306,356	96%	334,416	95%
	うち、光熱水費	248,448		187,147		206,180	
	うち、委託料	99,545	100%	101,514	100%	104,753	100%
	合計	435,102		407,338		423,660	
収入 (財源)	使用料	28,065		30,182		31,005	
	その他	72,520		64,107		64,086	
	一般財源	334,517		313,049		328,569	
	合計	435,102		407,338		423,660	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 ・施設運営や管理に7人、企画運営業務に4人のスタッフが従事しています。本庁と比較すると1日の開館時間が長く、また休館日も少ないことからシフト制とし、年間3,000件を超える施設利用の使用許可事務等に対応するための人員を配置しています。 2. 企画運営費 ・スケートリンク運営のほか、中地(人工芝・多目的コート)や会議室等の貸館業務を主とした施設運営を行っています。 ・企画運営費は、スケート教室開催に係る経費や、スケート競技会の運営経費に対する補助、国内最高記録等を記録した選手への報奨金などです。 3. 施設の維持管理費 ・良質な氷とアリーナ内の空調環境を維持するためには、24時間の空調運転及び温湿度管理が必要であるため、電気・ガス使用に係る光熱水費が多くなっています。 4. その他 ・その他収入の主なものは施設命名権(ネーミングライツ)収入、屋内広告看板掲載料収入などです。							

取組の状況	
設置条例	八戸市屋内スケートリンク条例
運営方針等	スケートスポーツの振興と興行開催を両立させるバランスの取れた運営を目指す
取組の内容	「氷都」を標榜する当市は古くからスケートが盛んな地域であり、多くの市民が屋外スケート場でスケートに親しんできたところですが、施設の老朽化が著しいことから、青森県に対し平成9年度より県立屋内スケート場の整備を要望、平成25年の建設に係る合意を得て、令和元年6月に市立の施設として完成、同年9月より供用を開始しました。 中心市街地に立地する好条件を活かし、多目的な利用を通じた交流人口の拡大や中心市街地の賑わい創出を目指しています。 1. 施設の特徴 (1) 国内3か所目のスピードスケート競技の国際大会開催が可能な屋内スケート場 - 世界水準の氷質（最新の液化CO2冷媒による均質な氷） - 空調環境（屋根からの輻射熱の遮断） - 照明環境（全館LED照明による省エネルギー化） (2) 施設の多目的利用 - 中地 バスケットボールやバレーボールができる「多目的コート」 - サッカーやフットサルができる「人工芝コート」 - アリーナ 大規模イベント時には、1階アリーナに6,000人、2階スタンドに3,000人の計9,000人を収容可能 - 会議室 大小様々な大きさの会議室を貸出し - ホワイエ、交流サロン どなたでも無料で使用が可能



スケートリンクでは一般滑走、中地では球技が行われるなど、多目的な活用が可能

(3) 利用者数

	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
スケートリンク	33,988人	32,595人	42,638人	45,089人	44,525人
中地（多目的・人工芝）	15,931人	18,935人	25,322人	25,891人	40,761人
会議室	10,132人	11,714人	15,205人	21,302人	23,259人
トレーニング室	3,708人	3,492人	2,920人	5,205人	8,756人
その他（観覧者等）	67,242人	62,950人	82,722人	99,393人	118,317人
計	131,001人	129,686人	168,807人	196,880人	235,618人
1日当たり	482人	571人	561人	627人	763人

(4) 年間スケジュール



(5) 災害時における地域防災拠点施設、広域的な防災拠点

- ・一時的な避難者の受入れ
- ・消防や警察、自衛隊などの防災関係機関の活動拠点
- ・救援物資の集積場所
- ・防災備蓄倉庫



災害時には地域防災拠点施設として活用

2. 主な事業

(1) 国際大会誘致事業

（公財）日本スケート連盟、青森県スケート連盟等と連携し、国際大会誘致を進めています。

（国際大会開催実績）

- ・2024 ジュニアワールドカップスピードスケート競技会（令和6年2月3日～4日）
- ・2024 ISU 世界ジュニアスピードスケート選手権大会（令和6年2月9日～11日）
- ・2025 ISU 四大陸スピードスケート選手権大会（令和6年11月15日～17日）

(2) スピードスケート合宿誘致事業

「八戸市スポーツ推進計画」に基づき、スピードスケート合宿誘致を進めています。

（取組内容）

- ・スピードスケート競技部を置く企業、大学及び高等学校のほか、各都道府県のスケート連盟へ合宿案内の送付
- ・市ホームページにおいて合宿情報の提供
- ・より利用しやすい滑走時間やトレーニング時間の設定、自転車練習モデルコースの提案
- ・八戸スポーツコミッションによる八戸市スポーツ合宿補助金の交付

（合宿者数）

	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
年間延べ合宿者数	7,569人	12,068人	13,565人	17,600人	18,293人
うち夏季延べ合宿者数 （7月下旬～9月）	2,526人	5,806人	5,432人	7,728人	9,891人

(3) イベント誘致事業

スケートリンク解氷期（3月下旬～6月中旬）において、ライブエンターテインメントや展示商談会、コンベンションなどの各種イベント会場としての利活用を図ります。

(4) 経済波及効果

各種競技大会やイベントの主なもの及びスピードスケート合宿の受入れに係る効果を測定するため、青森県作成の「産業連関表による波及分析シート」を用いて、経済波及効果を算出しています。

(経済効果)

年度		来場者数	経済効果額	
令和2年度	スピードスケート合宿	7,569人	約1.1億円	
令和3年度	お笑い芸人EXIT 地域活性化ライブ	(主催者非公表)	約0.2億円	約2.2億円
	スピードスケート合宿	12,068人	約2.0億円	
令和4年度	全日本スピードスケート選手権大会	2,000人	約0.1億円	約4.3億円
	特別国民体育大会冬季大会スケート競技会	10,579人	約2.0億円	
	スピードスケート合宿	13,565人	約2.2億円	
令和5年度	ジュニアワールドカップスピードスケート競技大会	14,360人	約2.8億円	約5.4億円
	世界ジュニアスピードスケート選手権大会		約2.6億円	
	スピードスケート合宿	17,600人	約2.6億円	
令和6年度	四大陸スピードスケート選手権大会	7,267人	約1.6億円	約4.5億円
	全日本スピードスケート選手権大会	5,117人	約0.3億円	
	スピードスケート合宿	18,293人	約2.6億円	

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	75,764
	企画運営費	13,226
	施設の維持管理費	333,043
	うち、光熱水費	213,925
	うち、委託料	101,937
	合計	422,033
収入(財源)	使用料	29,751
	その他	66,904
	一般財源	325,378
	合計	422,033



令和6年11月15～17日開催
四大陸スピードスケート選手権大会

(1)維持管理費について

① 施設維持管理の状況

7月下旬から3月上旬までのスピードスケートシーズン中、良質な氷の状態を維持するためには、リンク面の温度管理のほか空調管理を24時間行う必要があるため、一定の維持管理費を要するものです。

② 維持管理費削減の取組

施設を維持するために要する経費を抑えるため、全館LED照明を導入し消費電力の低減を図っているほか、施設運営に支障のない範囲において冷凍機や空調機の運転調整、更には館内や駐車場照明の間引き点灯等を行うなど、効果的かつ効率的な運用に取り組んでいますが、今後も工夫を重ねて経費の節減に努めていきます。

(2)財源の見通しについて

① 収入の状況

施設を占有して利用する利用者からは受益者負担として施設使用料を徴収する一方、一般財源を活用し施設使用料の水準を抑えることで幅広い利用を促すとともに、『氷都八戸』の中核施設としてスピードスケート競技を中心としたスポーツの普及振興や市民の健康増進、更には市外からの競技者の合宿誘致や競技会の誘致等による地域経済への波及効果につながっています。

また、その他の財源として、施設命名権（ネーミングライツ）収入や屋内広告看板掲載料収入、解氷期におけるイベント、コンベンション等の誘致に取り組み、財源確保に努めていきます。

② 収入増に向けた取組

- ア ネーミングライツの導入
ネーミングライツ（施設命名権）を活用し、自主財源を確保しながら、施設の良い維持管理を図るものです。
- ・ 契約相手 株式会社吉田産業
 - ・ 契約期間 令和5年10月1日～令和10年9月30日（5年間：第2期目）
 - ・ 契約金額 年間22,000,000円（税込）

- イ 屋内広告看板の導入
アリーナ内に民間企業等の看板広告（有料）を掲出することで、自主財源を確保しながら、施設の良い維持管理を図るものです。
広告掲出企業は、令和4年度に1社、令和5年度に1社増え9社となっています。

年間 1,100,000円（税込）3社	年間 550,000円（税込）5社	年間 880,000円（税込）1社
プライフーズ株式会社	清水建設株式会社	東京鉄鋼八戸工場
エプソンアトミックス株式会社	YKK AP株式会社	
デーリー東北新聞社	三浦建設工業株式会社	
	青い森信用金庫	
	株式会社サンデー	